

平成27年度 関西福祉大学金光藤蔭高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

<p>建学精神 : 我々が天地の大徳によって生かされ、家族をはじめ多くの人々の祈りによって育てられていることの自覚と感謝の念から発して、その自分を大切に、将来世のお役に立つ人間となって、世界真の平和達成と文化の発展のために貢献し、そこに生甲斐と喜びを見出す人でありたいという念願に立って、教育の徹底を期する。</p> <p>教育方針 : 「学理求道」「自律貢献」 確かな学問と豊かな人格を備え、大局観に基づく課題認識を持って、社会に有用たる生き方を求める人材を育成する。その人材を輩出することによって本校としての社会的責任を果たす。</p> <p>組織目標 : ① 生徒一人ひとりを大切にした教育内容と進路保障で応える学校 ⇒教育 ② 社会の変化や時代の要請に応じて、常に改革・改善し続ける学校 ⇒経営 ③ 教職員一人ひとりの高い職業意識と組織力で業務遂行する学校 ⇒組織</p> <p>スローガン: 「学びの場で、一人ひとりの夢にチャレンジしよう！」</p>
--

2 中期的目標

<p>1 法人理念と教育目標の遡求</p> <p>2 教育内容の充実改善</p> <p>(1) コース内容の検証</p> <p>(2) 基本的学力の向上</p> <p>(3) 生徒指導の充実</p> <p>(4) 進路指導の充実</p> <p>3 学校組織体制の改善</p> <p>(1) 学校組織の再編</p> <p>(2) 組織と業務を通じた人材育成</p> <p>4 広報募集活動の充実強化</p> <p>5 創立90周年に向けた取り組み</p>
--

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析	学校評価委員会からの意見
<p>○生徒 <平成28年2月実施></p> <p><u>授業評価</u> <u>学校生活全般</u> 今年初めて1・2年生全員に調査した。</p> <p>○教職員 <平成28年4月実施></p> <p>ア ITライセンスコース・ライフクリエイティブコースの改編への取り組みが計画通り進んでいる。</p> <p>イ 組織改革もおおむね受け入れられている。</p> <p>【分析】 生徒アンケートではほとんどの項目で約60%以上の生徒が肯定的な反応を示している。 生徒目線でわかりやすく、丁寧に説明し、指導していきたい。</p>	<p><平成28年4月26日開催></p> <p>学校評価委員の構成</p> <p>①学識経験者(生徒進学先/大阪人間科学大学教授) 「須田正信氏」</p> <p>②学校近隣防犯委員「新居見英夫氏」</p> <p>③本校PTA会長「合田里美佳氏」</p> <p>○教育内容の充実改善について</p> <p>① コース内容の検証について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の専門機関との連携を図り、着実に目標を到達している。 <p>②基本的学力の向上について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ITコース、ライフコースとも授業のレベルに合った工夫などがなされている様子がうかがえる。アンケート結果を受けて改善できるところは着手することを望む。 <p>③生徒指導の充実について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・転退学者の改善がみられ、努力の成果がある。 ・近隣住民としては生徒たちの行動を見ることで元気をもらっている。その上で普段からの挨拶及び礼節をさらに励行できるように努力されたい。転退学者数の改善は良いことだがまだまだ少ないとはいえない。保護者としては学校ばかりに任せず、協力していきたい。

	<p>④進路指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学率が若干上昇していることで努力がみられる。 ・未進学や未就労率においても改善されていることからその努力がみられる。 <p>○学校組織</p> <p>①校組織の継続的な改善がみられその成果がある。特に将来を見据えたミドルリーダーの育成に力を注いでいることは重要である。</p> <p>○広報活動</p> <p>①入学生徒の確保など課題が残るもののより分かりやすい広報活動に努めている。</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

目標	中期的	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
	法人理念と 教育目標の遡求	(1)法人理念の徹底 ア 本部参拝の定着 イ 心の教育を意識	(1)法人理念の徹底 ア 学年行事の一つではなく、恒例の学校行事として毎年実施する。 イ 式・行事や、生徒・保護者への配付物等を通じて、「心の教育」を意識して啓発する。	ア 学校行事として実施学年以外で70%以上が認識しているか。 イ 式辞・挨拶や配付物等で語られたことを70%以上が認識しているか。	ア 3 学年の行事として実施して 2 年になる本部参拝だが 1・2 年の 71%の生徒が認識していた。来年は 80%以上を目指したい。 イ 1・2 年の 44%の認識にとどまった。事前教育・式辞を改善する。
	教育内容の充実改善「コース検証・学力向上・生徒指導・進路指導」	(1)コース内容の検証 ア メディアアートコースへの移行 イ ライフクリエイティブコースの改編 ウ トップアスリートコースの安定	(1)コース内容の検証 ア ITライセンスコースからメディアアートコースへの移行をスムーズに行う。 イ ライフクリエイティブコースの内容を検証する。改編が必要であれば柔軟かつスピーディーに対応する。 ウ サッカー部所属する生徒の安定的な確保と次年度募集。	ア カリキュラムの完成と講師手配ができたか イ ライフクリエイティブコースの改編が本年度できたかどうか ウ サッカー部に所属する生徒の全員進級と平成 28 年度募集は 27 年度以上生徒確保	アイ アートアニメーションクラスについては、カリキュラムを完成させ、大阪アニメーションカレッジ専門学校の講師派遣を手配した。平成 28 年度の体制としてスペシャリティークラスの協力校、辻学園、NRB 日本理美容専門学校との連携を確実なものとした。 ウ トップアスリートコースサッカー部 1 年生は 15 人全員が進級した。平成 28 年度募集は 19 人が入学した。確実に各中学に認知されつつあると思われる。

<p>(2) 基本的学力の向上 ア 基礎基本の徹底 イ 研究授業の実施 ウ 生徒の授業評価</p>	<p>(2) 基本的学力の向上 ア 基礎力指導(HR)や学習方法の充実・工夫に力を入れる。 イ 授業改善や授業力向上に向けて研究授業等に取り組む。 ウ 生徒による授業評価を授業改善に活かす。</p>	<p>ア 自学教材「マナトレ」を各学級終礼で毎日実施したが生徒自身が感じる効果を70%以上が認識しているか。 イ 昨年度から開始した習熟度編制授業を定着させたかどうか イ 教諭・常勤講師45名の中で各教科1名が研究授業を実施 イ 公開授業を年間2回の期間を設けて実施 ウ 教諭・常勤講師全員が生徒による授業評価を年間1回実施して分析する。そして授業改善につながっていると70%以上の生徒に実感させる。</p>	<p>ア 「(先生は)基礎力の充実のために授業や HR に力を入れている」と答えた生徒が 58%の認識にとどまった。基礎力向上のための取り組みは実施しているが生徒がその効果を実感できていない。教材のレベル・時間の持ち方を改善したい。 イ 平成 26 年度入学生と 27 年度 2 学年の進路別学級編成を実施したコース(IT・ライフ)の 1 人当たりの年間欠席総数を比較した。</p> <table border="1" data-bbox="1346 537 1879 676"> <thead> <tr> <th></th> <th>IT</th> <th>ライフ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26 年度</td> <td>12.8 日</td> <td>21.9 日</td> </tr> <tr> <td>H27 年度</td> <td>11.8 日</td> <td>23.4 日</td> </tr> </tbody> </table> <p>欠席数でモチベーションの上下を判断するのは完全ではないものの 1 つの指標にはなると判断すると、IT では微減したもののライフでは増加している。学級編成の効果が出たとは判断できない。ただ子どもたちの学級編成についての満足度は個別に聞き取りをしたが低くない。授業のレベルが自分に合っているので受け入れられている。研究授業は実施した。今後も継続していきたい。 ウ 授業評価が授業改善につながっていると 52%の生徒の認識に終わった。アンケート結果を早い段階で担当教員に伝え、改善につなげたい。</p>		IT	ライフ	H26 年度	12.8 日	21.9 日	H27 年度	11.8 日	23.4 日
	IT	ライフ										
H26 年度	12.8 日	21.9 日										
H27 年度	11.8 日	23.4 日										
<p>(3) 生徒指導の充実 ア 生活・学習習慣の確立 イ 人権侵害事象の根絶 ウ 挨拶の徹底</p>	<p>(3) 生徒指導の充実 ア 生活習慣の確立や、自尊感情の醸成に力を入れて、転退学者数の改善を継続して行う。「3年間お預かりする」「社会のよき構成員として世に送り出す」という使命感を大切にす。 イ 生徒間の人権侵害事象は起こさない。 ウ 登下校時、授業開始・終了時の挨拶習慣化とともに、外来者に対する挨拶を励行。</p>	<p>ア 前年度の転退学者 58 名を更に改善したか イ 人権侵害事象はゼロを目指す ウ 70%以上の生徒が挨拶をしているか。</p>	<p>アイ 前年度転退学者が 58 名から 45 名と改善した。1 件人権侵害事象は起きた。謝罪と事後対応で被害生徒は事件発覚後も元気に登校できている。生徒の悩みに先生が丁寧に対応できているかという質問には 66%の生徒が肯定している。80%以上を目指したい。 ウ 71%の生徒がきっちり挨拶できていると答えている。決して満足いく数字ではないのでさらに徹底させたい。</p>									
<p>(4) 進路指導の充実 ア 進学実績の向上 イ 望む職業への就労実現</p>	<p>(4) 進路指導の充実 ア 大学・短大・専門系学校への進学実績の向上 イ 公務員試験対策の講座を実施する。 ウ 卒業段階での未進学者・未就労者の数を減らす。</p>	<p>ア 四年制大学進学率を前年度よりアップさせる ア 大学・短大・専門系学校全体の進学者も前年度よりアップさせる イ 公務員試験対策講座を実施する ウ 未進学・未就労率を前年度より減らす</p>	<p>ア 平成 26 年度四年制大学進学率が 34.1%であった。27 年度は 33.0%にダウンしたが、進学全体では 62.1%から 67.5%にアップした。 イ 公務員試験対策講座は前年度と比べ外部講師が 12 回から 15 回、本校教員が 24 回から 30 回と講座数を増やして力を入れたが受験者数が 0 であったので、受験者の改善に努めたい。 ウ 未進学・未就労率は進学で 1.4%から 0.5%、就職で 3.8%から 0%に改善した。しかし、進学・就職もしない生徒は 1.9%から 2.5%に増えている。0%を目標に指導したい。</p>									

学校組織体制の改善	(1)学校組織の再編	(1)学校組織の再編 ア 組織的・機動的な学校体制の確立 組織力・機動力・実行力の検証が必要、組織は合理性・機能性をもって編制する。 早期に検証を進めて、可能な時期に微調整を行い、次に次年度体制で再編する。	ア 早期ではあるが1学期末までに、調整ができていないいくつかの分掌・委員会を統合・再編して、下半期に向けた活動を展開する	ア 教職員の適性・能力に応じた校内人事や校内分掌がなされているかについておおむね65%の教職員が肯定している。 分掌・委員会の統合・再編については教務学事系が4部、総務企画系が3部と26年に4部であった分掌が7部に拡大整理された。その他、委員会は整理した。
	(2)人材育成	(2)人材育成 ア 管理職や分掌組織の再編を通してミドルリーダーを育成する。 イ 部長・主任・室長等の構成を検証する。課題解決型の業務を通してOJTで育てる。	ア ミドルリーダーの層を厚くする取り組みを行う イ 教諭・常勤講師と時間をかけた面談を実施 イ 重要な学校課題を提示して、課題発掘・解決型の業務を実践させる	ア 上記のように7部に拡大することでラインの仕事を意識させる分掌長、副分掌長が増加した。 イ 1学期を中心に校長が教諭・常勤講師と時間をかけた面談を実施した。 特にミドルリーダーには重要な学校課題を提示して、課題発掘・解決型の業務を実践させた。
広報募集活動の充実強化	(1)広報募集の強化 ア 入学生徒の確保 イ 外部広報のアピールアップ	(1)広報募集の強化 ア 入学生徒の確保 平成28年度入学者を増やす。本校を対象とする生徒層に対して本校の「崇高な法人理念」と「良質な教育内容」で3年間育て上げるということで、外部評価を得る。 イ 外部広報のアピールアップ ホームページや学校案内冊子等で学校説明の表現にわかりやすい統一感を持たせる。	ア 平成28年度入学者を目標340名として、最低でも本年度の入学者数を上回る イ ホームページ・学校案内を刷新する	ア 平成28年度の入学者は282名と目標には届かなかった。文理特進の名称に受験生が抵抗を感じたのだと推測する。また、ITライセンスコースをメディアアートコースとし、旧ITライセンスコースをメディアライセンスクラスと改称したが、その名称から取組の内容が伝わりにくかったことが受験生減につながったと推測する。次年度は文理進学・エンカレッジ・ITライセンス・アートアニメーション・ライフクリエイティブ・トップアスリートの6コースとし、よりわかりやすく広報したい。 イ ホームページ・学校案内ともに業者を複数から選定し、中学生や保護者に好感をもたれるものとするため、更なる改良を重たい。
	創立90周年に向けた取り組み	(1)創立90周年記念事業に向けた進捗 ア 創立90周年記念事業運営委員会を通して計画的に進める。 イ 記念誌・式典(記念祭・物故慰霊祭、記念式、祝賀会)・記念事業に向けて各パートチーフを中心に学校全体で取り組む。	ア 運営委員会を計画的に行い、校内に周知する ア 外部関係者への周知・依頼を正確に行う イ 取り組みを通して学校の一体感を醸成する	ア 運営委員会は毎月1回実施、年に数回進捗状況を報告した。外部関係者へ周知・依頼をした。 イ 創立90周年記念事業成功に向けてスタッフを徐々に増やしている。